

第2章 地域の概況 2.2 生活環境の概要 2.2.1 大気質

現地調査の内容 5～6 ページ

湾岸周辺5区の大気汚染の状況をアセスしてください。

理由

2025年の大阪万博の予想人数は2800万人、1日平均16万人になります。構想では内陸に駐車場を設けてシャトルバスで運ぶ手段を考えるとしています。仮にすべてシャトルバス利用とすると、50人乗りバス乗車率70%として万博で9,500台という予想になります。大阪府は同時期に、万博に隣接するIRカジノへの集客を一日平均4万人と見込んでいますから、カジノで平均2350台になります。一部は鉄道輸送されるでしょうが、それでも大量の自動車交通が生じます。夢洲と内陸とつなぐ道路輸送ルートは2本のみ、1つは夢舞大橋で舞洲経由して内陸へ、2つは夢咲トンネルで咲洲経由して内陸へつながるルートです。そして臨海5区（西淀川、此花、港、大正、住之江）の高速道路や幹線道路によって関西や全国につながります。IRカジノ・万博への流通輸送は全国各地から臨海5区に集中し、そこから夢洲に向かう流れになります。このことはIRカジノ・万博によって発生する交通量に応じて臨海5区の自動車交通量が増大し、自動車排ガス汚染負荷が増大することを意味します。

大阪市、とりわけ臨海5区は、かつて埋立て臨海工業や港湾開発に起因する大気汚染、自動車排ガス汚染によって激甚な公害が引き起こされ、大阪市の全体の2倍以上の比率の1934人の方がぜんそくなどの公害で苦しんでいます。大都市比較統計年表2016によれば、大阪市は21大都市中最も大気汚染物質濃度が高い都市の1つです。その大阪市の中でも、臨海5区は大型車交通の割合が高く、NO₂やPM_{2.5}などの自動車排ガス汚染に見舞われています。湾岸5区は、万博開催中の乗用車、バスの集中でさらに大気汚染の悪化が予想されます。